

大腿骨骨幹部疲労骨折の 1 例

○松島 真司 (まつしま しんじ), 吉田 和也, 伊藤 研二郎, 原田 義文, 茨木 一行

医療法人 明石医療センター 整形外科

【目的】

野球練習中に守備動作を行なった際に生じた比較的まれな大腿骨骨幹部疲労骨折の 1 例を経験したので報告する。

【症例】

16 歳男性, 野球部内野手。数か月前より膝関節痛があり, 近医で単純 X 線撮影受けるも明らかな異常は指摘されなかった。その後守備練習中ボールを捕球しようとして, かがんだ際に大腿部に激痛を自覚し, 歩行不能となった。大腿部は明らかに変形し, 単純 X 線像にて大腿骨骨幹部に転位のある横骨折を認めた。CT 像で骨折部にわずかに骨膜反応様の所見を認めたため, 腫瘍による病的骨折も疑って MRI 撮影を施行したが確定診断に至らなかった。このため病理組織検査を行った結果, 腫瘍性病変による病的骨折が否定されたため, 大腿骨骨幹部の疲労骨折から完全骨折に進行したものと考えられ観血的骨接合術を施行した。術後経過は良好でスポーツ復帰も可能となっている。

【考察】

若年者で先行する症状として膝関節痛・大腿痛があり, その後大腿骨骨折を来たした場合, その治療に際してはまず悪性疾患を鑑別する必要がある。鑑別のため MRI などの精査を行なわれても, 血種等により画像の判読も困難で, 最終的には病理組織検査が必要となる。この様に比較的まれな病態で, かつ鑑別疾患としてまず悪性疾患を考えなくてはならず, 最終的に骨接合に至るまでに時間を要することが多くなるため, 他科との連携を密にして精査・治療を円滑に進める事が肝要である。